

「ネットワーク分析マップ」の使用方法

＜マップ作成の作業手順＞

- ①三重の同心円の真ん中に本人を書き
- ②支援が日常に近い人ほど円の中心になるように
「常時的・継続的支援」ができる人、
「必要時に支援要請時に支援」ができる人、
「支援の可能性のある存在」というように書いていく。
家族は○印、友人・知人、地域、公的資源は個人を△印、組織を□印で表す。
(記入例では、メリハリを持たせるために○印△印を塗りつぶして表示している。)
- ③その際、「家族」、「友人・知人」、「地域」、「公的資源」というように、円を四分割にした各象限に書くことを意識する。
- ④その中で、今よりもっと支援が強くなる(近くなる)と好ましいと思う人がいたら、どのくらいの位置まで支援があったらよいかを矢印で書いて示してみる。反対に、支援が遠ざかってしまった人なども矢印で示すことができる。

マップにプロットする作業を通して、ソーシャルサポート・ネットワークの分析をすることが重要である。「本人はどんなニーズをもつのだろうか？」という問いを常に念頭に置きつつ、例えば高齢者の場合であれば、認知症の程度や進行状況、あるいは施設入所といった環境変化などによってどんなサポートを喪失し、その結果どんなことが生じやすいかを知り、代替りのサポートを支援するためにはどうすれば良いかを検討する。個人のニーズと可能なサポートをマッチングすることが必要である。ネットワークの中では、個人は何らかの役割をもっている。本人にはどんな潜在的サポートがあるのかを同定し認識されたら、新たなサポートを見出すことも可能である。

＜役割分析表の活用方法＞

ソーシャルサポート・ネットワークの分析マップに示した人たちの中で、意思決定支援に関するそれぞれの場面(ニーズ)で、実際に誰がどのような役割を引き受けているのか、また今後の可能性を確認するものである。

- ①分析の場面を特定する。
- ②誰にどのような役割が期待できるのか、社会的存在を意識しながらチームメンバーに加えていく。潜在する支援ネットワークを可視化し、ニーズごとに支援者を確認する。
- ③支援者ごとに、現在引き受けている役割と期待される役割を記述する。

役割分析表を活用することによって、本人にとっての公的サービスや周囲にいる人々の私的な支援の適切さを判断することが可能となり、その時に最適なソーシャルサポート機能を考えながら支援ができるようになっていく。そして、同時に「今、私たちが行っている支援は本人にとって、どのような役割を果たしているのか」を確認することでもあり、支援をする側が常に自らの行っている支援の意味を問いかけ、ネットワークにおける自らの役割（ソーシャルサポート）を自覚し、仕事を行っていくうえでの、その重要性を確認していくことができる。

意思決定支援の役割を分析するには、ソーシャルサポートの6つの機能が有効である。以下に、支援のスキルとしてのソーシャルサポートについて説明する。

<支援のスキルとしてのソーシャルサポート>

意思決定支援には、単に情報提供をするだけではなく、本人から発せられるメッセージを、全身の表情と言葉から受け止めなくてはならない。本人が生きている世界で感じ、本人の目線で考えてみる共感的理解が必要となる。応答、明確化、観察ということをしなから、情緒面での手当てをし、アセスメントを行う。そして、問題の本質をとらえていくことが必要である。問題の本質を理解しないで、一方的に情報を与えても情報提供を通じて相手をサポートしたことにはならない。このように、他者から得るサポートとしてのソーシャルサポートが必要となる。

渡部律子は、ソーシャルサポートの6つの機能¹を示している。

表1:ソーシャルサポート6つの機能

サポート機能	サポート機能の説明	必要な技術
自己評価サポート	自分の能力・社会的価値・仕事での能力に疑いをもったときに有効に働く。自分がマイナスに考えていた自己像の側面を打ち明けることで、自分の評価を再度高めることが出来る	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話を注意深く聞くこと（傾聴） 相手の話に、感情・事実の反射 共感、安心、愛着、尊敬の提供 再保証 自己開示 非審判的態度の保持
地位のサポート	自分が何等かの役割を果たしていることで得られるサポート	<ul style="list-style-type: none"> 相手に役割を与えること 役割を果たしている相手を確認すること
情報のサポート	問題の本質、問題に関係している資源に関する知識、代替的な行動に至る道筋に関する情報を提供すること	<ul style="list-style-type: none"> 適切な情報ネットワークを持っていること 相手のニーズに見合った情報を見つけだすこと
道具的サポート	実際的な課題に対する援助の提供	<ul style="list-style-type: none"> 相手に必要な具体的な援助力を持っていること（お金・労働力・時間等）
社会的コンパニオン	共にいる、出かけるなどの社会活動のサポート	<ul style="list-style-type: none"> コンパニオンとして使える時間の所有 相手にとって重荷にならないこと
モチベーションのサポート	根気よく何かを継続したり、解決に向かって進んでいけるようにモチベーションを高めるサポート	<ul style="list-style-type: none"> 励まし 努力の結果と予測との再保証 将来の希望を見つけ相手に伝えること フラストレーションの対処の方法 共に頑張ろうというメッセージの伝達

出典:渡部律子「高齢者援助における相談面接の理論と実際第2版」p.43

¹ 渡部律子「ソーシャルサポート理論の応用」『高齢者援助における相談面接の理論と実際第2版』, 2011, pp40-56, 参照, 一部引用

第1は、「自己評価のサポート」である。これは、人が自分自身を価値ある存在であることを確認させてくれるようなサポートを意味する。

第2は、「地位のサポート」である。社会生活をする私たちにはいろいろな役割がある。人は役割を持ち集団に属していることで、社会から承認されていることを感じ取ることができる。

第3は、「情報のサポート」である。自分が必要としている情報を提供してもらうことである。情報は資源に関するものだけではなく、問題の本質、問題に関係している資源、代替的なやり方等に関する情報を得た時に、それらが情報サポートになる。

第4は、「道具的サポート」である。このサポートは物資サポートとも呼ばれ、労働力、金銭などの実際に必要な目に見える種類のサポートを意味する。

第5は、「社会的コンパニオン」とよばれるサポートである。買い物に行く、市役所に行く、病院に行くなど、私たちは「誰かと一緒に行く」というそれだけのことで、「誰かが一緒にいてくれる」という安心が得られるというものである。

第6は、「モチベーションのサポート」である。私たちは、その行動をやろうとする意欲の強さの程度によって、ある行動を始めたり継続するということがある。できたことを認める、努力が報われるというような再保証してくれる、将来に希望を見出すようなサポートがモチベーションを高める。

このソーシャルサポート機能は、意思決定支援で、誰がどのような役割を担うかを検討するうえでも重要な示唆となる役割分析の支援スキルである。